

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立特別支援学校西日野にじ学園 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		児童生徒の自立と社会参加を推進するため、一人ひとりの能力・特性に応じた教育をすすめるとともに、自立のために必要な知識・技能を身につけることにより、社会の一員として明るく主体的に生きていく人間の育成に努めます。
(2)	育みたい児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、意欲的に学べる子ども ・自分の成長に感謝し、自他のかげがえのない命を大切にできる子ども ・基本的な生活習慣が身につく、心身共に健康で安定した生活ができる ・社会的・職業的に自立し、コミュニケーション力や社会性が身についている
	ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的で熱意ある指導を実践（障がいの理解、待つ姿勢、褒める指導） ・相手を尊重しお互いを認め合う「和・協力」を大切にした職場 ・児童生徒や保護者・地域から信頼される教職員となるための行動が取れる

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>児童生徒：毎日の学校生活が安全安心で楽しいものであってほしい。 自らのもてる能力を十分に引き出してほしい。 友だちや教員をはじめとする様々な人とのつながりをつくりたい。</p> <p>保護者：安全安心で楽しい学校生活を送ってほしい。 保護者との連携を十分にしたい。 卒業後の自己実現に向けての取組をしてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<ul style="list-style-type: none"> ○自治会・学校所在地住民等 <ul style="list-style-type: none"> ・どんな学校でどんな児童生徒がいるのか知りたい。開かれた学校であってほしい。 ○交流相手校 <ul style="list-style-type: none"> ・交流及び共同学習を通じて、自校の児童生徒の障がいの理解や人権感覚の育成につなげたい。 ○実習先・就労先 <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・働く意欲など、基本的に必要な力を学校で身につけてほしい。実習から実際の就労後まで、継続して連携したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会・学校所在地住民等 <ul style="list-style-type: none"> ・本校のことを実際に見たり聞いたりして、知ってほしい。 ○交流相手校 <ul style="list-style-type: none"> ・本校の児童生徒のことを理解したうえで、地域に住む仲間として関係を築いてほしい。 ○実習先・就労先 <ul style="list-style-type: none"> ・安心でき、意欲的に取り組める労働環境と生活の場を提供してほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・信頼向上委員会の取組は、教職員がコンプライアンスについて自分事として考える貴重な機会であり、今後も継続していく必要がある。 ・教室不足に関しては、児童生徒の安全面を重視した教育環境の整備が必要である。 ・教員不足への対応や教職員一人ひとりのモチベーションの向上、業務のさらなる精選や行事の見直しなどに取り組む必要がある。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、「西日野キャリアプラン」を活用した教育実践の充実に向けて、各学部でテーマを設定して取り組み、効果的な指導を推進することができた。引き続き、小学部から高等部までつながる、自己実現、自立と社会参加を目指したキャリア教育を、具体的なテーマを設定して取り組む必要がある。 ・全学部で教育課程を見直し、令和6年度の教育課程を編成した。教育課程で示した「自立活動の指導」及び「教科指導」が、学校として統一性・一貫性のある教育課程となっているかを、実践と照らし合わせて検討する必要がある。 ・地域における障がい者理解を深めるとともに、児童生徒の自立と社会参加に向けて、直接的な交流及び共同学習の充実、副次的な籍への対応、地域住民とのつながり等を強化する必要がある。 ・学校が、安全で安心できる居場所であると児童生徒や保護者が意識できるよう、命を大切にする教育、人権教育、いじめ防止の取組等について、組織的な指導・支援の強化・継続が必要である。 	

学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不祥事を自分事として捉え、児童生徒及び保護者・関係者から信頼を得られるよう、児童生徒の状況に応じて支援するとともに、体罰等によらない指導・支援の徹底と、児童生徒の人権を尊重した教育活動を推進する必要がある。 ・ 児童生徒増が続いており、教室不足が大きな課題である。なないろ棟の整備を進めてきたが、さらに児童生徒増が見込まれているため、今後の方向性について関係機関等と連携して具体的な対応を検討する必要がある。 ・ 児童生徒の多様化、状況の変化や発達に応じた教育を進めるため、教職員の特別支援教育に係る専門性及び授業力の向上を目指した研究等の取組を進める必要がある。 ・ 南海トラフ地震発令時及び震度5強以上の地震発令時の対応について、教職員間での共通理解を図り、危機管理マニュアルや地域との連携方法等を具体的に検討する必要がある。 ・ 市町教育委員会との連携及び巡回相談の継続や高等学校への支援など、地域の支援体制の整備と、特別支援教育推進に係るセンター的機能の役割を果たす必要がある。 ・ 教職員がやりがいを持てるよう、職場環境の整備や業務内容の精選、総勤務時間の縮減など、働きやすい職場環境づくりに取り組む必要がある。
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学部で具体的にテーマを設定し、キャリア教育の充実に向けた教育実践を推進する。 ・ 「自立活動の指導」「教科指導」について、学校として統一性・一貫性のある教育課程になっているかを実践と照らし合わせて検討する。 ・ 地域における障がい者理解や本校児童生徒の自立と社会参加に向けて、交流活動を推進する。 ・ 命を大切にできる教育、人権教育、いじめ防止の取組等において、児童生徒の生きる力を育むための組織的な指導・支援を充実させる。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不祥事を自分事として捉え、自己の使命と職責の重さを自覚し、コンプライアンス及び体罰禁止の意識をもち、公務内外を問わず、保護者・関係者からの信頼向上と不祥事根絶に取り組む。 ・ 児童生徒増や教室不足について、関係機関等と今後の方向性について具体的な対応を検討する。 ・ 児童生徒の多様化や状況の変化、発達に対応した教育を進めるため、特別支援教育に係る教職員の専門性及び授業力の向上を目指した研修等を実施する。 ・ 危機管理マニュアルを見直し、非常時における対応について教職員間での共通理解を図るとともに、地域との具体的な連携方法等を検討する。 ・ 市町教育委員会との連携、高等学校への支援、地域の学校や関係機関への情報発信を進め、地域におけるセンター的機能を発揮する。 ・ 職場環境や業務内容の精選、総勤務時間の縮減など、働きやすい職場環境づくりを進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
「西日野キャリアプラン」を活用した教育実践の充実	<p>○（小学部） 集団活動を通して友だちや身近な人と関わりをもち、意欲的に活動に取り組む力を育てる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年の合同授業で、人との関わりをもつ場面を設定 ・ 自ら活動に参加できるように、児童の実態に合わせた段階的な課題の設定 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年で合同授業の内容の検討（学期に1回以上） ・ 年度末の振り返りと学部内での共有 <p>○（中学部） 各作業学習班での活動を通じて、働く意欲や姿勢を身につけられるよう支援する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各班で、生徒の実態に応じた作業内容の提供や環境づくりを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年での合同授業について、学期ごとの振り返りと次回につながる内容を検討したうえで授業を実施できた。まとめとして、人と関わりをもつ場面や段階的な課題の設定について、具体的に意見を出し学部で共有することができた。 ・ 各作業班で一人ずつ視点となる生徒を抽出し、当該生徒を通して、「生徒が自ら取り組める設定の工夫」、「働く姿勢を意 	

	<p>・高等部の作業学習を見学して得た生徒の学びを、各班での活動に反映</p> <p>【成果指標】</p> <p>・各班で生徒を抽出、当該生徒の支援について評価・改善とともに共通理解を図る機会を学期に1回設定。アンケート等で成果をまとめ、今後の活動に活用</p> <p>・高等部作業学習への教員の参加</p> <p>○（高等部）職業・社会生活能力の獲得と、自分らしく生きる力を育てる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・作業・職業コースでは、週1回程度、実態に応じた進路学習の時間を設定。生活コースでは、卒業後の生活を見据えた支援を実施</p> <p>・現場実習前に本人・保護者と目標を設定、実習後に目標達成度や課題を確認</p> <p>・集団でのルールを守り、仲間との関わりを通して学ぶ活動の機会を設定</p> <p>【成果指標】</p> <p>・進路学習に関する取組を記録（100%）</p> <p>・日常生活や現場実習における生徒の様子や課題等の情報を学部会、学年会、コース会で共有（随時）</p> <p>・コースを越えた学年集会を実施（年3回以上）</p> <p>○（全体）進路先・家庭・地域の中で「自分らしく生きる力」を育てるため、学部間でのつながりを大切にしたいキャリア発達に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・卒業後の生徒の様子や課題を知り、卒業後の生活を見据えた途切れのない支援を考える研修を、学部を超えた縦割りグループで実施</p> <p>・教職員が参加する福祉施設見学を実施</p> <p>【成果指標】</p> <p>・各学部で途切れのない支援について話し合う機会を設定（年1回以上）</p> <p>・新転任者対象の福祉施設見学の実施（年1回以上）</p>	<p>識する場の設定」をテーマに取り組んだ。学期に1回、作業実践交流会を実施し、全体で各班の実践について共通理解を図ることができた。また、生徒が活動を振り返るなど工夫し、次年度へ取組を引き継ぐことができた。加えて、高等部の作業学習を見学し、中学部にアイデアを取り入れることができた。</p> <p>・進路学習は、作業・職業コースは計画通り実施し、生活コースは40分間継続した作業に取り組み、活動と休憩の気持ちの切り替えやルール等を学んだ。また、取組は全て記録した。</p> <p>・日常生活での様子や課題等は学部会、学年会、コース会で共有した。</p> <p>・学年集会として、遠足（ウォークラリー）、学年レクリエーションを実施した。</p> <p>・進路全体学習会として、「卒業後の生活を見据えて」というテーマで講演を実施し、卒業後の生活を知ることによって、今必要な支援が明確になった。また、学部を超えた縦割り研修では、各学部の学習の積み上げを整理し、今後の支援について話し合う機会がもてた。</p> <p>・福祉施設見学では、卒業後の進路をよりイメージすることができた。</p>
<p>教育課程に係る実践をふまえた検証</p>	<p>○授業実践や年間指導計画を通じて、統一性、一貫性のある「自立活動の指導」及び「教科指導」について検討し、内容の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <p>・年間を通じた教育内容の検討</p> <p>【成果指標】</p> <p>・教育課程検討委員会 各学部 全校 年間2回</p> <p>・教育課程に関する研修会 1回</p>	<p>・教科部会において、学習指導要領に基づいた自立活動や教科指導の内容を検討し、目標の検討及び設定ができた。また、教育課程に関する研修会を1回、教育課程検討委員会を2回実施した。</p>

<p>地域における障がい者理解・交流</p>	<p>○交流学习を通してお互いを尊重し合う機会を図り、地域とのつながりを深める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いを理解し、尊重し合う機会となるような交流学习を実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学部で直接的な学校間交流の実施（年1回以上） ・小中学部希望者の居住地校交流の実施（随時） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間交流の状況（小学部）同学年の児童との直接的な交流（ビデオでの間接交流もあり）（中学部）4年ぶりに相手校の生徒が考えた内容で、直接的な交流を本校教室で実施 （高等部）サッカー部の合同練習、相手校の文化祭での作品販売・展示、高校（2校）と合同で西日野駅に花のプランターを設置する「花いっぱい運動」等の直接交流を実施 ・居住地校交流の状況 小学部 77名、中学部 23名が年間1、2回実施
<p>命を大切にする教育、人権教育、いじめ防止の取り組みを充実</p>	<p>○児童生徒の実態に応じて、自分自身並びに他者の命を守るための学習に取り組む。また、いじめや人権問題を含む問題行動等の未然防止・早期発見・早期解決に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「命の大切さ」や「人の感情」「セルフコントロール」等に関する学習を実施（性の学習、交通マナーやスマートフォンの適切な使い方、SNSの利用方法、いじめ防止に向けた学習を含む） <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各オリエンテーションや性の学習（年2～3回）を実施、記録を保存して全教職員に周知（随時） ・生徒の声や取組内容を人権サークル新聞や人権CMとして作成、全体へ周知（随時） 	<ul style="list-style-type: none"> （小学部）日々の生活指導の中で、個別に指導 （中学部）学習グループや学年単位で、性の学習を実施。必要に応じて個別に指導 （高等部）学期ごとに性の学習を実施（1学期1回、2学期は各学年、コース別に実施） ・人権サークルとして、様々な国の文化に関するCMを作成

改善課題

児童生徒の状況が多様化する中で、的確な実態把握に基づく指導・支援の充実を図るとともに、各学部の連続性を生かした、自己実現、自立と社会参加を目指したキャリア教育を継続する必要がある。また、コロナ禍以降、児童生徒数の増加とも相まって、地域とのつながりや地域への学校の取組に関する発信が減っていることから、具体的な対応を検討、実行する必要がある。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>教職員の専門性と授業力向上</p>	<p>○個々の教員が日々の実践活動を通じて、日常的・持続的に研修・研究を深められるよう、研修会の実施とともに校内外の学びの機会の情報を提供する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の6区分の中の心理的な安定とコミュニケーションに焦点をあてた授業改善研修を実施 ・外部講師による授業力向上を目指した研修会を実施 ・学校外の研修会について積極的に情報を提供 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に関する研修会を実施（年3回以上） ・外部講師による研修会の満足度（80%以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に関する研修会を、年5回実施した。内外部向けの外部講師による研修会では、参加者アンケートの結果、外部97%、内部96%の参加者が満足と回答した。 	

<p>センター的機能の充実</p>	<p>○地域向けの体験研修会や学区域内の保幼小中高への支援など、センター的機能を発揮して地域の支援体制の充実を図る。</p> <p>（活動指標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域向けの体験研修会を実施 ・巡回・要請相談などを通じて、支援内容に関して助言や提案 ・北星高等学校の通級による指導への支援 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域向け体験研修会参加者の満足度（80%以上） ・校外支援の実施（年50回以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援回数 34回 高等学校 9回 幼保育園 9回 小学校 12回 中学校 3回 その他 1回 <p>※一部の市町で、支援の要請方法を見直したため、支援回数が減少した。今後は、支援が有効に機能しているかに視点を置いた相談支援システムを検討する。</p>	
<p>信頼される学校づくり</p>	<p>○コンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上により、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校信頼向上委員会や人権教育担当等によるコンプライアンス遵守の徹底に関する取組の実施 ・個人情報の保護と管理の徹底 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権研修の実施（年2回） ・不祥事チェックシートの実施（学期に1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月、1月に教職員の人権感覚を高める研修会を実施した。 ・「不祥事防止のためのチェックシート」、コンプライアンスに係るアンケート結果の周知、研修等を実施した。 	
<p>危機管理体制の強化</p>	<p>○児童生徒、教職員の災に対する実践的な対応能力を高めるとともに、学校全体の防災体制を整える。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育〔避難訓練、地域・保護者との連携等〕、安全点検の実施（各年3回） ・教職員対象研修・救急法講習の実施（年2回） ・危機管理マニュアルの点検及び更新 ・スクールバス避難訓練の実施（年1回） ・自主通学登下校指導（随時） <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急法講習受講者の知識理解度（80%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・土砂災害・火災を想定した合同防災訓練や研修会を実施（3回）し、地域との連携を図った。また、防災に関する研修（講演会）を実施し、教職員の防災や危機管理意識を高めることができた。SB避難訓練1回、自主通学の指導は計18回実施した（電車の遅延等への対応12回を含む）。 ・救急法講習を2回実施し、アンケート結果から90%以上の参加者の知識理解度が高まった。 	
<p>働きやすい職場づくりの推進</p>	<p>○教職員一人ひとりが働きやすさを実感できる環境づくりに取り組む。</p> <p>○業務の合理化・見える化を進め、教職員の過重労働を削減する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合70%以上 ・放課後に設定した会議等が60以内に終了した割合70%以上 ・学校閉校日の設定（年5日） <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年360時間を超える時間外労働者数（0人） ・一人当たりの月平均時間外労働時間（30時間以下） 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定日に退校した教職員の割合は12月で87%、会議は、おおむね60分以内に終了した。 ・年360時間を超えた教職員は0人、月45時間を超えた時間外労働者は延べ7人であった（1月末現在）。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・月 45 時間を超える時間外労働者（0人） ・一人当たりの年間休暇取得日数（10 日以上） 		
改善課題			
<p>児童生徒が年々増加する中で、教職員の異動もあることから、児童生徒への指導・支援に係る専門性を維持、向上させるための仕組みが必要である。例えば、外部専門家を招聘する機会を増やすなど、校内でも教職員が学ぶ機会を得られる体制を整備する。また、コンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上を図るなど、信頼される学校づくりに向けた具体的な取組を、引き続き推進する必要がある。</p>			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路を見据えた系統性のある進路支援や教育活動をすすめていくため、学部を超えた教職員の連携を強化し、効果的な取組や手立てを検討していく必要がある。 ・「地域とともにある学校づくり」を進めるために、本校のビジョンや教育活動の目標を地域に周知し、地域と一体となって取り組む必要がある。 ・教職員が主体的に研修することができる仕組みを構築し、一人ひとりのモチベーションの高まりや教職員の資質向上につながる取組を積極的にすすめていく必要がある。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の多様化や状況の変化への対応、的確な実態把握に基づく指導支援の充実を図るとともに、各学部の連続性を生かした、自己実現、自立と社会参加を目指した教育について引き続き取り組む。 ・地域への学校の取組に関する情報を発信し、地域とのつながりが強化できるような具体的な対応を検討し、実行する。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒への指導・支援に係る専門性を維持、向上させるための仕組みとして、外部専門家を招聘する機会を増やすなど、校内でも教職員が学ぶ機会を得られる体制を整備する。 ・コンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上を図るなど、信頼される学校づくりに向けた具体的な取組を推進する。